

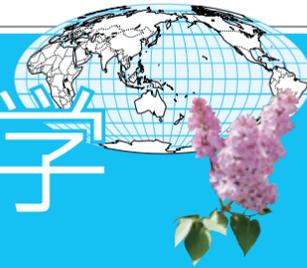
学報

学校法人 北海学園

北海商科大学

アジアの時代に、アジアを学ぶ。

Hokkai School of Commerce Newsletter



Vol.20

2016.6.25

発行:北海商科大学
編集:北海商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
TEL:011-841-1161(代)
FAX:011-824-0801
http://www.hokkai.ac.jp
制作:(株)ラボット

主な記事

3. 学部長挨拶	2面
4. 研究科長・学部長・センター長紹介	2面
5. 卒業式挙行	2面
6. 優秀学生表彰	2面
7. 第4回高校生懸賞作文の募集	2面
8. 入試結果概要	3面
9. 就職状況について	3面
10. 2年次所属学科選考開始	3面
11. 保護者説明会	3面
12. 留学生修了式	4面
13. 交換留学生歓迎会開催	4面
14. 留学生紹介	4面
15. 留学だより	4面
16. レスブリッジ大学と提携交流35周年	5面
17. 新校舎ご案内	5面
18. 地域交流	5面
19. 「研究のいま」中西良之准教授	6面
20. オーストラリア領事講演会	6面
21. 外部講師特別講演	6面
22. ゼミ訪問 橋元ゼミ	6面
23. 2016年度 前期公開講座開催	7面
24. スピーチコンテスト・語学検定報告	7面
25. 韓国全南大学から教育実習生受入	7面
26. OB・OG NOW!	7面
27. サークル活動紹介	7面
28. 新任教員・交換教員紹介	8面
29. 新刊紹介	8面
30. 学生相談室ニュースレター4	8面
31. 行事予定	8面

待望の新校舎2号館が完成!



5月に完成した新校舎2号館(写真左)と1号館(写真右)の東側からの全景。内部施設の詳細は5面に掲載。

平成28年度 学式挙行

平成28(2016)年度入学式が4月3日の日曜日、ホテル札幌ガーデンパレスにおいて挙行されました。今年度は商学部197名、大学院商学研究科修士課程2名(本学過年度卒業生1名+山東大学威海1名)、交換留学生13名(中国煙台大学6名+中国山東大学威海3名+韓国大田大学校4名)、合わせて212名の新生を迎えました。森本学長の式辞に続いて入学者宣誓を木村彩海さんが行い、その後研究科長・学部長・各センター長の紹介が行われました。また式終了後には希望者向けに本学施設の見学時間が設けられました。



ホテル札幌ガーデンパレスにおいて挙行された2016年度入学式

平成28年度(第40回)入学式式辞

北国の春のこの佳き日に、北海学園の理事・監事・役員の方々、また設置校の北海学園大学の学長 木村和範先生、北海高等学校の校長 山崎省一先生、北海学園札幌高等学校の校長 大西修夫先生をはじめ、多数のご来賓の皆様のご臨席をいただき、ここに北海商科大学の新生197名と、交流校である中国山東大学から3名、中国煙台大学から6名、韓国大田大学校から4名の留学生を迎えました。

また、東アジアの時代を見据え、流通、観光、経営分野の高度な専門的知識・能力を備えた人材育成を目指す大学院商学研究科 修士課程2名、合わせて212名の入学式を、保護者、関係者の皆様とともに挙行できますことは、私ども教職員一同が深く喜びとするところであります。

東京以北で最大の都市、人口190万人を擁する札幌市の豊平区で、地下鉄に直結した恵まれた都市環境のもとに開学し、11回目の入学式を迎えました。

この北海商科大学の新たな歴史は、きょう入学された皆さんが、築き上げて行くものです。教職員一同も、優れた成績で入学した皆さんと独自の校風を作って行くことを楽しみにしております。

母体である北海学園の歴史は古く、創立は131年前の明治18年にさかのぼります。

現在、北海学園は、北海学園大学と大学院のほか、北海高等学校と北海学園札幌高等学校を設置しており、1万1千名ほどの学生生徒が日夜、勉学に励み、また課外活動に精を出しています。学園全体の卒業生は16万名を超え、道内はもとより、全国各地、さらに海外でも活躍しております。きょう皆さんは、その北海学園の仲間として迎えられたわけです。

新生の皆さんは、新しいアジアの時代のグローバル化を見据えた言語・文化・社会及び国際関係を中心に学び幅広い問題意識から商取り引きやビジネス活動に欠かせない基本となる知識を広く深く学び、経済学部や経営学部とはまた違った、実践教育にも力を入れて展開しております。

特に最初は、皆さんの将来に役に立つ外国語の教育と異文化の理解に力を入れています。

本学の海外の教育研修交流姉妹大学は、北海道の姉妹州のカナダのアルバータ州南部にあり、35年の交流実績があるレスブリッジ大学、中国では沿岸部の風光明媚な山東半島にある、山東大学と煙台大学、韓国では札幌市と姉妹都市に

なりました、昔の百濟王国の地にある大田広域市の大田大学校がすでにそれぞれ皆さんを受け入れる準備を整えています。皆さんは、アジアの時代にアジアの若者たちと新しい大学で学ぶことになるわけです。

さて、大学とは広く知識を学び、真理を探究するところです。基礎的な教育があれば専門的な研究もありますが、総じて、教育研究の機関として、人類の学問的・文化的遺産を、次の世代に伝達し継承するという、公共性の高い社会的使命を負っています。

そうした大学で学ぶことは人格形成にもつながります。そのため本学では多彩なカリキュラムを用意しております。特に、少人数教育を重視し、研究と教育を統合する人材育成プログラムを展開しています。また、語学、情報管理、観光、貿易通商、社会行政などの分野で高度な技能と資格の取得を目指すなど、学問を通して実践的教育を実現して行くカリキュラムを特徴としております。

私は常々、大学教育の真髄は、学問を通じての、教師と学生との人間的一体化であると思っております。ゼミナールを通じての、教授と学生との学問に関するやり取りを通じて、皆さんの人格形成がなされるものと期待しております。歴史ある北海学園の、恵まれた環境の中で、学生生活を大切に、課外活動や社会活動にも積極的に取り組んでいただきたいと願っております。

新生の皆さんにおかれましては、きょうの入学式の喜びを忘れず、これからの学生生活に反映させてください。明日への飛躍を確かなものとするよう、皆さんが健康に留意し、精一杯努力することを期待して学長の式辞といたします。

平成28年4月3日 北海商科大学学長 森本 正夫



式辞を述べる森本正夫学長

学 平成28年度 部長挨拶



新たな活躍のステージとして新校舎2号館が完成!

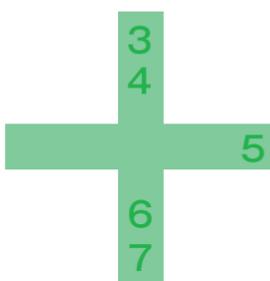
商学部長 阿部 秀明

札幌へ移転後10年を経過した本学は、新たな活躍のステージとして、この5月、待望の「新校舎」が完成しました。新校舎には、中教室・コンピュータ教室をはじめ、演習室のほか、多目的ラウンジや女性専用室(パウダールーム)も備えています。特に、1階女性専用室には、お化粧直しや着替えに配慮し、パウダーコーナーとフィッティングブースを備えた快適な利用空間を実現しました。同階の多目的学生ラウンジは、学生同士の交流やイベントの場として多目的に利用できる開放感ある空間に整備するとともに、調理スペースも備えました。また、3階演習室では、講義から実習へ、そして議論から発表へと、様々な学びのスタイルが循環する「アクティブラーニング」を想定し、学習シーンに応じて柔軟に変更できるスタッキングテーブルとチェアを配備し、学生の能動的な学びへの転換を学習環境面からサポートするように工夫しました。

新たな活躍のステージに向かって、教職員一丸となり学生サービスの向上に努めてまいります。今後とも本学へのご理解・お力添えをお願い致します。



5月に完成した新校舎2号館



研 究科長・学部長 センター長紹介

■大学院研究科長	西川 博史 教授
■商学部長	阿部 秀明 教授
■教務センター長	柳川 博 教授
■学術発展センター長	伊藤 昭男 教授
■入試・広報センター長	村松 祐二 教授
■キャリア支援センター長	田辺 隆司 教授
■学生支援センター長	佐藤 博樹 教授
■国際交流センター長	水野 俊平 教授

卒 平成27年度 業証書・学位記 授与式挙行

平成27(2015)年度卒業証書・学位記授与式が3月18日、札幌パークホテルにて挙行されました。平成27年度博士課程修了生1名、修士課程修了生1名、商学部卒業生166名(うち商学科110名、観光産業学科56名)に卒業証書・学位記が授与されました。

卒業生を代表して鹿又瞳太さんが答辞を述べ、卒業生、修了生は教職員やご来賓、家族が多数見守る中、新たに学窓を巣立ちました。卒業式の後、同所にて「卒業生を送る会」が催されました。本学同窓会田口茂春会長、森本正夫学長が祝辞を述べられ、教職員や同期生の皆さんと学生時代最後の時間を有意義に過ごしました。



写真上：卒業証書授与 下：卒業生を送る会 右：卒業生集合写真



優 秀学生 表彰

北海商科大学教育振興資金による学業優秀学生・課外活動優秀学生表彰を、2年次と3年次の学生を対象として実施しました。本学の教育振興資金による学生の海外留学及び対外活動支援はこれまでも行ってきましたが、平成25(2013)年度からは学業優秀・課外活動優秀学生にも表彰対象を拡大してきました。平成28(2016)年度は3月24日のガイダンスにおいて、新2年次3名、新3年次3名を表彰し、奨励金を授与しました。今後も奨励金等を活用し、学業成績向上や課外活動で大きな成果をあげられるよう期待しています。

(阿部)



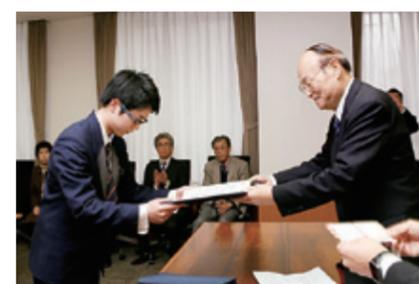
阿部秀明商学部長より表彰される学生(左3年生、右2年生)



高 第4回 校生懸賞作文の募集

本学では平成24(2012)年度より、高校生の素直で鋭い観察眼で現在の市場、マーケティングに関心を持って頂くことを目的として、道内の高校生を対象とした懸賞作文の募集し優秀な作文を表彰しています。

今年度のテーマは、①日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちの観光スポット、②日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちのグルメ、③日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちのお土産です。これらの中からの一つのテーマを選択し、文字数2,000字以内で応募していただきます。締切は平成28年9月20日(火)です。応募要項、パンフレットは、6月下旬に道内の各高校に郵送するとともに、北海商科大学のホームページでもお知らせします。



昨年の表彰式(12月25日)

入賞者には森本学長より、表彰状と副賞(図書券)が手渡され、審査講評と懇親会を開催する予定です。

お知り合いの高校生に是非ご案内ください。(橋元)

2016年度

入試結果概要



全国的な18歳人口の減少が続くなかであって、石狩管内を除く道内の大学進学率が全国平均を下回る状況には、平成28(2016)年度も変化がみられませんでした。また看護や介護系学部・学科への進学希望者が、地方圏を中心に引き続いて多くみられる様子も変わっていません。こうした傾向は商学部を擁する本学にとって向かい風の状況を示します。他方で、本学が標榜する「アジアの時代にアジアを学ぶ」にここ数年微妙な影を落としていた東アジアの外交問題に改善の兆しがみられ、外国人観光客の大幅な増加とあいまって、国際ビジネスと国際観光が学べる本学への注目度が上昇する場面も見受けられました。

平成28(2016)年度の入試では、いわゆる入試制度の複線化を実施しました。一般入試では、これまでの3教科3科目入試(2月8日入試)に加えて、グローバルな世界において活躍するための言語に関心がありかつこれを得意とする学生の入学を想定し、英語・国語の2科目からなる入試(2月13日入試)を追加しました。またセンター試験利用入試では、これまでの3教科3科目入試(Ⅰ期入試)に加えて、3科目評価では見過ごしがちな限られた科目で優れた能力のある学生の入学を想定し、受検した3科目中の高得点2科目により合否を判定する2教科2科目入試(Ⅱ期入試)を加えました(詳しくは入試要項を参照下さい)。

一般入試・センター試験利用入試(募集定員100名)では計372名、指定校推薦・公募推薦等の推薦入試(募集定員80名)では計87名の志願者があり、最終的に197名の入学者となりました。実質競争倍率は一般入試で1.1倍、センター試験利用入試で1.2倍となります。入学定員180名を17名ほど上回る入学者数となりましたが、教育指導上なら問題のない適正な入学者数を確保する結果となっております。(村松)

就職状況について

本学の平成27(2015)年度就職状況につきましては、商学部全体で96.6%の就職決定率(商学科:95.8%、観光産業学科:98.1%)(5月1日現在)となり、例年並みの高い数値を達成しました。また、卸売・小売業、サービス業、金融・保険等の多くの業種に入社できたのは、ひとえに卒業生諸君の努力の賜物です。詳しくは下図に示した通りです。さて、平成27年度就職活動では、3月に広報活動開始、8月に選考開始となるなど、スケジュールが大幅に変更されたことなどから、企業側と学生側の双方に混乱や錯誤が生じました。前年度までの就活情報が100%参考にならない中で、学生諸君の日々の活動は大変な苦勞の連続であったと思います。一方、平成28(2016)年度は広報、選考、内定の中で、選考のみが2か月前倒しになり6月から開始されます。しかし、すでに企業説明会などの形で選考は開始されているのが実情です。今後、キャリア支援センターは、4年生向けの合同企業説明会を北海学園大学と共同で開催するとともに、道内一円の企業訪問を実施して絶えず新しい企業情報を収集し学生諸君を強力にサポートします。また、個人面談によって一人ひとりの置かれた状況を聞き取り、きめ細やかな就職指導を行っていきます。

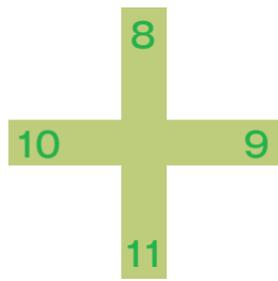
(田辺)



昨年12月に行われた業界研究会LIVE voice 2015(北海学園大学と合同)

一般入試	センター試験利用入試
★3科目入試 国・英・選択	★Ⅰ期入試 国・英・選択
★2科目入試 国・英	★Ⅱ期入試 国・英・選択中の高得点の上位2科目利用

2年次所属学科選考開始



平成23(2011)年度入試から学科別ではなく学部入試に移行したことに伴い、2年次第3セメスター開始時に所属学科を決定する作業は今年度で5回目となります。学生の所属学科希望を最大限に考慮し、両学科の定員に対して極端に希望が偏った場合には1年次の学業成績を基準に所属学科の選考を行うことを1年次から周知し、所属学科選考の作業を進めています。まず、3月24日の新2年次ガイダンスにおいて、所属学科決定までのスケジュールを説明し、両学科の定員に偏りが生じた場合の選考基準を1年次の成績とすることを確認し、両学科教育委員会委員長より学科の概要とカリキュラム・ポリシーを説明しました。

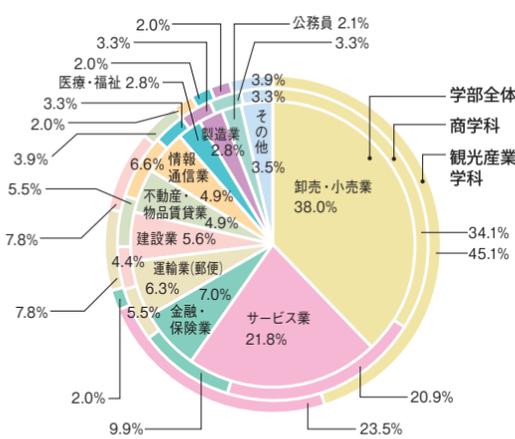
5月18日には第1回目の2年次所属学科選考ガイダンスを実施し、両学科教育委員会委員長による学科選考に向けた説明とともに、「学科選考に係るゼミナール見学希望届」を配布しました。6月7日から6月16日にかけて両学科のゼミナールを見学し、志望学科選択の参考にしてもらい、6月29日には第2回目のガイダンスを実施し、「志望学科届」を配布して選考作業に入ります。所属学科の発表は夏季休業終了時の9月13日を予定しています。(柳川)



3月24日に行われた新2年次ガイダンス

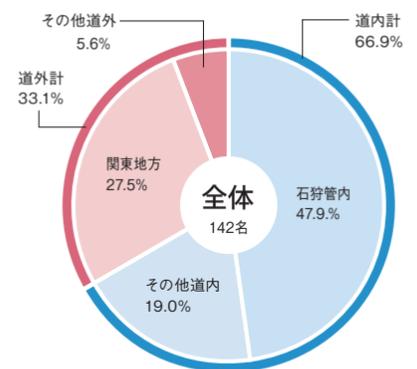
2016年卒/業種別就職状況

(割合は四捨五入による)
円グラフ内側から、学部全体、商学科、観光産業学科



2016年卒/本社所在地別就職状況

(割合は四捨五入による)



保護者説明会を 開催(2年次・3年次)

平成28年度の保護者説明会が、本学6階を会場として5月28日(土)に2年次、6月4日(土)に3年次の保護者を対象として開催されました。この説明会は、前者は入試・広報、教務、国際交流、学生支援、キャリア支援の、各センターの業務等を知っていただくため、また後者はキャリア支援に特化して毎年学年単位で行っています。28日の冒頭では、阿部学部長が本学を取り巻く現況や今後の取り組み、さらに新校舎2号館の完成等について説明されました。次いで、各センター長から各部局の運営状況や報告事項等の説明がありました。一方、4日にはキャリア支援センターが昨年度の就職状況報告及び次年度の就活動向、就職支援体制等について説明しました。さらに、外部講師による「就職活動への親の関わり方」と題した講演がありました。説明会に続いて、質疑応答と個別相談が行われ保護者からのご質問に対応しました。両日も多くの方々が出席され、熱心に耳を傾けられていました。(田辺)



保護者説明会での個別相談



1月に帰国した派遣交換留学生、教員と記念の集合写真

交換留学生歓迎会 開催

4月16日(土)午前11時半から、本学地下1階の自由学習コーナーにて、平成28(2016)年度留学生交流会が実施されました。協定校である山東大学(威海)・煙台大学・大田大学からの交換教授の先生、今年1年間本学に留学する留学生(13名)と教職員、大学生、日本人学生が参加しました。在校生はもちろん、卒業生の参加もあり、昨年度同様、総勢で100人を越える参加者が会場を埋めつくしました。交流会では阿部学部長の挨拶に続き、国際交流センターの教員紹介、交換教授の先生の紹介、留学生・大学院生の紹介、記念写真の撮影などが行われ、軽食をとりながら楽しい交流のひと時をもつことができました。

(水野)



写真左：森本正夫学長から修了証書を受取る交換留学生 右：留学報告会

留 学生修了式

2月20日(土)午前11時から、本学1号館8階の開発政策研究所にて平成27(2015)年度交換留学生の修了式が行われ、森本正夫理事長・学長から中国山東大学(威海)・煙台大学・韓国大田大学からの交換留学生22人に修了証書が授与されました。これに先立ち、10時から405号教室で韓国・中国の留学生により、留学成果発表会が行われ、教職員や日本人学生の前で1年間の留学の成果と思い出を発表しました。12時からは2階の自由学習コーナーにて軽食をとりながら、留学生と日本人学生との交流会が行われました。13時からは再び405号室に場を移し、本学から中国・韓国へ派遣され、6カ月の留学を終えて1月に帰国した本学の1年生による留学報告会が行われ、中国と韓国での留学の成果と思い出を発表しました。

(水野)



交換留学生歓迎会の様子と記念集合写真

● 交換留学生紹介 ●

13名の交換留学生を紹介し、各大学から1名ずつ抱負を語ってもらいました。

中国 山東大学(威海)から



左から、
徐建华XU JIANHUAさん(院生)
肖芮XIAO RUIさん
虞颖TUO YINGさん
刘思宇LIU SIYUさん
郭倩(院生)
王迪WANG DIさん(院生)

山東大学(威海) ● 肖 芮さん

昨年夏の夏期短期研修で北海商科大学を訪れ、先生たちの熱心さに触れ、また友人も出来ました。そこでもっと日本を体験する中で日本語を学びたいと実感しました。ぺらぺらに日本語を話せるようになります。

中国 煙台大学から



左から、
石玉雪SHI YUXUEさん(院生)
楚先生
王喻霞WANG YUXIAさん
于中和YU ZHONGHEさん
杜瑞华DU RUIHUAさん
蔡凤仪CAI FENGYIさん
孟玲超MENG LINGCHAOさん
柴媛CHAI YUANさん

煙台大学 ● 于 中和くん

日本語科で学んでいるので、日本への留学は絶好のチャンスだと思いました。日本人のまじめさや良質なものづくり、特に経営などにも興味があるので、語学だけではなく様々な分野を学びたいと思います。

韓国 大田大学から



左から、
李在燾LEE JAEHOONさん
金宥眞KIM YOUJINさん
李基勳LEE KIHUNさん
(北海学園大学に留学)
秦先生
張榮玖Jang YOUNG MINさん
(北海学園大学に留学)
田旻培JEON MINBAEさん
金起煥KIM KI HWANさん

大田大学 ● 田 旻培くん

韓国では20歳で軍隊に入るため、勉強が遅れ日本語が上達しませんでした。そこで、日本で生活しながら学びたいと思いました。ボランティアやホームステイを経験したり、第二専攻が貿易なので貿易企業のことも学びたいです。

留学だより

中国 山東大学(威海)留学

● 観光産業学科3年 本間 麻友

3月から授業が始まり、午前中は文法、会話、リスニングの授業を受けています。たくさんの留学生がいる中で日本人は4人だけなので、中国語を使う機会が溢れています。午後は友達と遊んだり活動に参加したり、自由に過ごしています。留学生活にも慣れてきて、中国に対する印象が更に良くなったと思います。

5月には、日本語学科の発表会があり、私たちも中国人の学生と一緒によさこいを踊りました。本番直前は、授業の練習時間だけでなく、休日にも集まって練習をしました。準備は大変でしたが、発表会も無事に終わられて良い思い出になりました。その時仲良くなった友達とは発表会後も交流を続けています。

そして連休の時は、中国国内を旅行しています。先月は、北京に行きました。往復の汽車やホテル、行き先を調べることも中国語の勉強になっています。また、同じ国内でも威海には無い地下鉄に乗ったり、北京名物を食べたりと楽しかったです。

語学だけでなく、現地にいるからこそ学べることを沢山吸収して残りの留学生活も充実したものになりたいと思います。



中国 煙台大学留学

● 商学部2年 寺島 桜河

私たち3名は前回の半年の留学生活でさらに中国語を学びたいと思い、今学期もまた中国に留学することを決めました。今回私たちはまた半年間煙台大学に留学できる事になり、生活面や食事面などは問題なく過ごせています。学習面につきましては、冬休みの間日本であまり自習に取り組んでおらず、初めのうち少し苦勞しましたが、今は中国での授業にしっかりとついていけています。また今回の留学は前回に比べて日本人が少ないので、外国人と交流する機会も多くなりました。これは中国語を使って会話をするので、とても良いことだと考えております。留学に行くということは大変なことではありますが、とても貴重な経験になることだと思います。ですが簡単に行けるものではないので、このような機会があれば参加したいと考えており、大学生の内にたくさんのことを経験したいです。あと少しの留学生活ですが、とにかく怪我なく過ごせればと思っています。



韓国 大田大学留学

● 観光産業学科3年 富永 里緒

私が、韓国の大田にある大田大学に留学して約100日経ちました。大田大学は、周りに山があり、都会ではないですが、少し出かければ賑やかなところもあります。私は、大田大学で、国際通商学科に所属しています。授業は主に韓国語の授業、他には英語や韓国の伝統文化についての授業など受けています。後期学期は、貿易関係の授業も受けたいと思っています。授業以外の留学生活では、日語日文学科のMTや花見に参加したり、留学生だけの旅行や体育大会に出たり、学校で行われる大学祭も楽しみました。日語日文学科の日本語を勉強している韓国人や他の学科でも沢山友達ができ毎日充実した生活を送っています。私は、この留学生活が終わったら北海商科大学に戻って、就活活動も始まります。自分がしたい勉強を目いっぱいできるのがこの留学生活の1年間が最後なので大好きな韓国語を一生懸命勉強して過ごしたいです。



写真左：体育大会の様子 右：日語日文学科のMTで同じ班の人達と

レスブリッジ大学と 提携交流35周年

北海学園とレスブリッジ大学との交流が始まって今年で35周年となりました。5月17日、午前11時より学校法人・北海学園理事室にて、北海学園・レスブリッジ大学交流協定締結及び協議が行われました。レスブリッジ大学からはマイケル・マーン学長・副総長、ジャニス・ヴァザリー総長、ポール・パン国際交流センター長、およびモーリン・マーン学長・副総長夫人、グレン・ヴァザリー総長夫人が来札され、交流協定を締結し、北海学園・森本正夫理事長をはじめとする北海学園関係者と協議を行いました。同日午後5時からはホテルライフォート札幌にて「大学交流35周年記念祝賀会」が開催され、北海学園および北海学園大学・北海商科大学関係者が多数参加し、35年間の実り多い交流を振り返り、将来に向けての決意を新たにしました。なお、レスブリッジ大学との協定に基づき、8月8日から9月1日まで、北海学園からレスブリッジ大学に夏期海外研修学生15人が派遣されます。すでに、北海商科大学からは6人、北海学園大学からは9人の学生が派遣されることが確定しています。派遣された15人の学生はカナダ家庭にホームステイし、レスブリッジ大学学生のサポートを受けながら、レスブリッジ大学において英語研修を受けることになります。また、レスブリッジ市内の各種団体の行事に参加し、アルバータ州内の見学・観光を行います。(水野)



写真上：交流35周年記念祝賀会 下：交流継続協定調印式

新 校舎(2号館)のご案内

今春完成の新校舎(2号館)は、前号でも紹介しましたが、地上5階建て延床面積が約3200㎡。内装にもホールや廊下などには、LED照明を使っており、省エネをしながらもとても明るい校舎です。

1階は学生専用スペース中心ですが、2階はPC教室4室や会議室、3階は中教室2室とラーニング・コモンズ等の対応可能な演習室が4室、4階は中教室や小教室4室あります。エレベータが設置されている西側ロビーも大きなガラス面を取り入れ、採光と開放感あふれるスペースもあります。また、教室全体は周辺にマンションが多いことから環境に配慮し、全教室にレースのカーテンが引かれており、今までにない、柔らかい雰囲気も特色です。各教室にはエアコンも導入されており、夏場の暑さを気にしない快適な環境で学習できることも期待されています。なお2号館は、1階部分を除きすべての教室で飲食が禁止されています。(葛西)



2号館エントランスホール

1階正面入り口ホールで、インフォメーション表示もある。



エレベータロビー

大きなガラス面を取り入れ、明るく開放感あふれるスペース。



多目的ラウンジ

学生交流イベントも実施できるように流し台やIHクッキングヒーターもある。



サークル1

サークル専用室は2室。各サークルのロッカーやミーティングができる。



女性専用室(パウダールーム)

北海学園初の女性専用ラウンジ。内部には、メイク用のセット面8つ(イス付)や、更衣室、トイレ、洗面スペースなどもある。



男子トイレ

各階に配置された男子トイレも、2階以上には更衣スペースも新たに設置されている。



2301教室

今までのゼミ室にはない、各教室ごとに配色された教室は使い方もいろいろ。



2302教室

ゼミやグループディスカッションなどグループワークも可能。使い方はいろいろ。



2303教室

対面した並びでディスカッション、ラーニング・コモンズなどの新しい学習も可能。



2306教室

70人規模の中教室には、イスや机の部分カラーリングを配した。

16

17

18

地域交流

豊平川神社春季大祭と花苗植栽

4月15日、豊平区水車町6丁目にある旭水会館内に位置する「豊平川神社」の春季例大祭が行われ、旭水町内会のお招きにより、本学の留学生13人と日本人学生2人が参加しました。この神社の発祥は、明治20(1887)年、岩手県から入植した開拓者が、郷里の水神である三神のご神体をまつり、豊平川の氾濫防止と事業の安泰を祈願したことによるものだそうです。明治43(1910)年に札幌神社宮司により社名額に「豊平川神社」と揮毫されてから「水神さん」と呼ばれるようになったといいます。午後6時から行われた例大祭では、神主さんの祝詞奏上後、神社の由来、神饌の意味、拝礼の方式などについて説明していただきました。そして、神主さんのご指導のもと、留学生と引率教員が玉串奉納・拝礼を

行いました。その後、旭水町内会会長柴田崇行さんのご厚意により、奉納されたお神酒とお赤飯などがふるまわれ、地域の人々と交流する場が設けられました。留学生全員が法被を着て記念撮影をするなど、貴重な体験をすることができました。

また、5月29日には、環境ボランティア部が活動の一環として、本学と留学生交流センターの留学生と共に豊平地区町内会主催の花苗植栽活動に参加しました。町内会の皆さんの指導のもと、大学周辺や平岸街道などの街路樹スペースにマリーゴールドなどの苗を移植しました。その後、町内会のみなさんとキャンパス近くにある丸彦渡辺建設の免震施設などを見学し、防災への理解を深めました。(水野・加藤)



写真上：中韓の交換留学生たちが豊平川神社例大祭で水車町町内会の皆さんと交流
下：環境ボランティア部と交換留学生が参加した豊平地区町内会連合会の花苗植栽活動



多国籍企業の租税回避行為

現在、中南米パナマにある法律事務所「モサック・フォンセカ」から流出した「パナマ文書」がマスコミ報道され、サミットの議題に取り上げられるほど大きな政治問題に発展している。私が「多国籍企業の租税回避行為」に着目した8年前にはすでに租税回避行為の徴候が認められたが、世間ではそれほど注目されていなかった。今回の「パナマ文書」の流出は、世界全体の一部分ではあるが、世界の富裕層や支配層が税に対してどのような意識を持ち、行動しているのかが白日の下に晒された。租税回避行為とは、脱法行為である脱税ではなく税法に従った合法的な行為であるが、従来の節税とも異なる。それは、納税者が税法の持つ不確定性、曖昧さを逆手に取ることにより行われ、税法が予定していない異常な経済行動を取ることで租税負担額を軽減するものである。このような経済行動は合法的なものであっても、倫理的に国民の納得を得られるものではない。事実、日本でもお馴染みのスターバックスについては、租税回避行為により英国での納税額を恣意的に少なくしていたため、消費者による不買運動が行われた。

現在、政府部内では消費税率10%引き上げの再延期論が活発に行われており、財政再建のために税体系の早急な見直しが必要とされる一方で、TAX HAVENと言われる無税又は税率が非常に低い国に法人を設立して法人税、所得税の負担を大幅に軽減する

「研究のいま」

中西良之 准教授

多くの富裕層がいるのは事実である。米国を始めとする先進国では所得の格差が広がり、米国大統領選にも大きな影響を及ぼしている。

経済のグローバル化により、租税回避行為の横行は自国の課税権を侵害し、他国への利益移転をもたらすようになった。その背景には企業は納税額を費用の一部であると考え、税負担額を最小化する行動を取ることにいる。その結果、租税回避行為によって税負担を軽減するか否かで企業間に国際競争力の差が発生している。この問題に対処するため、Base Erosion and Profit Shiftingプロジェクトが2012年6月にOECD租税委員会に設立され、各国に対策に係る税制改正を要請している。

北海道ニセコ地区の外国資本による不動産投資

米同時多発テロ以降、豪州やアジアの多くのスキー客がニセコ地区の雪質に着目して北米、欧州のスキー場に代わりに来日している。ニセコ地区では外国人観光客宿泊のため多くの別荘、コンドミニアムが建設され、現在も活発な不動産投資が行われている。それらの主役は香港、シンガポールなどTAX HAVENに所在する投資家及び投資会社である。従来、多国籍企業の租税回避行為に関する制度面の分析を行ってきたが、今後はニセコ地区に投資する外国資本の租税回避行為について、事例を中心に研究を進めていきたいと考えている。



世界一のスキーホテルに選ばれた倶知安町のザ・ヴェール・ニセコ

19

20

21

22

オーストラリア領事 講演会



在札幌オーストラリア領事館のイアン・ブレイジア領事が5月18日、本学開発研究所で、オーストラリア（豪州）の社会や経済、留学制度について説明するセミナーを開催しました。

ブレイジア領事は「豪州と北海道は先住民族の存在や、近代以降に急速に開発が進むなど、歴史的な共通点が多い」と指摘したうえで、道東厚岸町が牡蠣の養殖技術を豪州から導入した事例など、複数の分野で北海道と豪州の交流が盛んであると紹介しました。

留学制度については、「豪州は親日国で、留学生保護の法律や留学生受け入れ校の政府登録制度が整っており、安心して留学できる」と説明しました。英語を学びながら働く「ワーキングホリデー」については、シドニーなどの都市部ではなく地方に滞在し、現地社会に溶けこむことを勧めました。

セミナーには、豪州留学やワーキングホリデーに関心のある学生や教職員ら約40人が参加しました。（佐藤千）

外部講師を招き 特別講演開催



6月14日に、堤ゼミと人的資源管理論II履修生合同で、北海道新聞社から2名の講師を招き講演をききました(写真左上)。4月14日に発生した熊本地震のニュースに接し、ゼミ活動の指針を話し合っていた堤ゼミ生は、ボランティア活動に関心を持つようになりました。社会福祉協議会に連絡をとる一方、5月には豊平川の河川敷の清掃、さらに商学という専門性を深めようと近隣の平岸中央商店街を訪ねる(写真左下)など、フィールドワークの成果や新聞記事を読み込んでレポートにまとめることもおこなっています。当日は、北海道新聞社講師からレポートの講評をいただいたり、新聞から得られるさまざまな情報の選択方法など、今後の就職活動にも役立つ有意義なお話をきくことができました。（堤）

ゼミ訪問 ◆ 橋元理恵 教授 コマース研究ゼミナール ◆



橋元理恵教授のゼミナールを訪ねました。

橋元理恵教授のゼミナールを訪ねました。

商学ではマーケティング、物流システム、会計、金融、経営戦略など、ビジネスに関わる様々な知識を学びます。それら学習した知識や理論は、実際の商業活動、企業活動にどのように生かされているかを考え、分析することで、より具体的に理解できるようになります。橋元ゼミは学生たちが、商学を生きた学問（実学）として身につけていくことを目標に、北海道の企業を対象とした研究と学習に取り組んでいます。

今年の2月、「外国人観光客向け菓子開発、学生の力で」もともと、北海道大と連携との見出しで、橋元ゼミの取り組みが北海道新聞に大きく取り上げられました。「もともと」はパンとスイーツの店舗を、道内各地に展開しているおなじみの会社です。

同社は昨年、外国人観光客をターゲットとした「北の散歩道」を発売しました。クッキーとチョコレートで北海道産果実のコンフィチュールを挟んだお菓子で、外国人のお土産にと考えた商品の開発は、同社としても初めての試みでした。この商品開発にゼミ生たちが協力したことが記事になったのです。

連携のきっかけは、ゼミの一環として行われた森本吉勝社長へのインタビューでした。橋元ゼミでは北海道の企業の研究を通して、マーケティングやビジネスシステムなど、企業活動を具体的に学ぶことを目標にしています。それはゼミ生が研究対象企業を選定することから始まり、文献による調査など関心のある内容を自らの視点で調べ、毎週ゼミで発表します。その研究の到達目標が社長インタビューだったのです。森本社長はゼミ生の研究成果に耳を傾け、質問にも丁寧に答えて下さったといいます。このとき橋元教授はゼミ生たちが生きた学問を習得する絶好の機会と考え、同社に商品開発への協力を呼びかけました。それが連携の始まりです。

現在、橋元ゼミに在籍する学生は、3年生が8人、4年生が6人の計14人。札幌の地下歩行空間などで訪日外国人にアンケートなどを行い、それらの調査をもとに外国人が手に取りたくなる商品をと、パッケージデザインの改良を提案しました。ゼミ生の北清直也君、永田将也



橋元ゼミのみなさんと(株)もりもとのみなさん(写真上) 研究発表をするゼミ生(写真左上) 橋元ゼミの提案が生かされた商品パッケージ(写真左下)



君、藤本亮汰君にそのときの経験を聞くと、「調査は大変でしたが、提案がパッケージに反映されたことで、大きな充実感を得ることができました」と口を揃えます。

同社と橋元ゼミとの連携は現在さらさらに強くなり、毎月1回、議論の機会が設けられています。ゼミ生たちは2チームを組み、調査研究を行っています。この日のゼミには、同社経営政策室の松原範宣室長、販売企画部の鈴木順子課長、経営政策室の姜雨婷さんの3人が出席、ゼミ生の研究発表を聞き、問題点の指摘を含め意見の交換を進めていきました。橋元教授は「どんな商品を作れば消費者の支持を得られるか企業は日夜考えています。『もりもと』さんとの協力は、ゼミ生が大学で学んだことを活用する上で大きな経験になる」と語ります。

東アジアのビジネス・文化における相互関係 — が開催される

平成28(2016)年度 前期公開講座

北海商科大学公開講座を上記の全体テーマの下で開催しました。

■日時：平成28(2016)年5月21日・5月28日・6月4日・7月2日・7月16日 (全5回、10:30~12:30)

■場所：北海商科大学8階会議場
■参加対象：一般市民 (含む学生)

本学の公開講座は平成19年度より前期・後期の年2回シリーズで開催し、本年度で10年目を迎えています。これまで「アジアの時代にアジアを学ぶ」という本学の特色ある教育に照らして東アジアの知的関心を高める内容となるよう留意し、実施しています。幸い、多数の関心ある方々の参加があり、恒常的な受講者も多数を数えています。今期は中国経済の展望、日中の古代女流文学、韓国の漢字事情、韓国人の視点からの国家の考察といった北東アジアの経済・文化・社会・政治に関してと、北海道のアイヌ民族・文化、北海道の金融機関からみた極東ロシアの現状、北海道の食品企業の現状とアジアとの係わりとを合わせた内容としました。単一文化に拘泥することなく、各国の多様性の中に異質性と同質性を見出そうとする努力から相互理解を深め、たゆまぬ国際協調への道を探求していくべき時代であると考えます。本講座

が単に知識の習得にとどまらず、日本を含めた東アジアひいては世界の人々の間の共通認識・相互理解および交流の一助となることを期待しています。多くの方々の積極的な参加を期待しています。(伊藤)



第2回公開講座の楚永娟煙台大学講師・本学交換教員

スピーチコンテスト・語学検定報告



本年5月28日「漢語橋」世界大学生中国語スピーチコンテストが孔子学院で行われ、本学から2年生が4名出場し、篠原凌乃子さん(写真)が健闘して3位に入賞しました。本年度のコンテストは「未来を明るくする」という講演テーマでした。篠原さんは留学経験がないにもかかわらず、原稿を読むのではなく心から感情を込めたスピーチで涙を流しながら本音を打ち明けたため、会場の観客は皆感動した様子でした。学習歴が1年あまりの彼女にとっては、審査員からの質問は他の出場者に比べやや難しかったものと思いますが、的確に回答を行い厳しい審査の中で高い評価を獲得しました。本年度、1位、2位を受賞したのは札幌大学で中国語を専攻している学生であり、

よく学習し高いレベルでした。今回の3位受賞は、本学の出場者にとってとても良い勉強になったと思います。今後、北海商科大学の中国語履修者は、より高い目標を立てて努力しなければ優勝するのはかなり難しくなるでしょう。なお、今回、学生に指導していただいた煙台大学交換教授の楚永娟先生及び中国から来日した交換留学生の皆さんには、心から厚く御礼を申し上げますと同時に、積極的にスピーチコンテストに参加した学生に感謝の意を表したいと思ひます。大変お疲れ様でした！また、4月17日に、韓国・国立国際教育院が主催し、韓国大使館と公益財団法人・韓国教育財団が主管する韓国語能力試験が本学の1号館にて実施されました。本学からも韓国語を履修した1・2年生が主に中級(3級~5級)の試験に臨み、熱心に問題と取り組みました。結果は6月中旬以降に郵送にて通知される見込みです。(蘇・水野)



韓国・全南大学校から教育実習生を受け入れ

5月17日から30日まで、本学と交流協定を締結している韓国・全南大学校から同大学韓国語教育学共同課程(修士課程)に在学中の大学院生3名が来学しました。今回来学した李恩国さん(修士課程2年次生・男性)、劉慶雅さん(同・女性)、宋熙善さん(同・女性)は、韓国語の教育実習の一環として本学の留学韓国語と韓国語会話文Iの授業に参加し、実際に授業を行ったほか、清田高校グローバルコースの韓国語の授業(2年生・3年生)の授業にも参加しました。全南大学校からの教育実習生受け入れは昨年11月に続き2年目となります。(水野)

O B・OG NOW!

中井 龍 ● 学校法人北海学園職員
北海商科大学大学院
商学研究科1年



院生研究室で

こんにちは。私は北海商科大学を2014年3月に卒業し、現在は北海学園大学附属図書館で勤務しています。教職員が研究目的に購入する図書の入業務(登録処理・発注手配等)・図書館内のアクティブ・エリア(グループ学習を行う場所)の運営管理他が私の担当です。学部生のときは中国語を専攻し、友人と共に中国語のスピーチコンテストによくトライし、また、西川先生・蘇林先生のご指導のおかげで3年間留学の機会を得ました。その経験は非常に貴重なものとなりましたが、働き始めてから気付いたのです。…足りない、全然足りないぞ。知識も情報検索能力も語学力もまだまだ!...と。自分の得意技は観光と中国語と言えるレベルにまだまだ達していない...と。もう一度、学びたい。知りたい。まだまだ、いろんな国を見てみたい。その願望が日増しに強くなりまして、今年度から北海商科大学の商学研究科に入学し、ピッカピカの院生1年生となりました。

現在は伊藤先生の指導の下で、DMO(Destination Management Organization)という観光推進組織のガバナンスを東洋と

西洋の比較で考察したいと考えています。近年、ヨーロッパが主流のDMOが日本でも導入の動きがあり、現在、観光庁が中心となり、全国に日本版DMOの推進を進めています。北海道でも北海道観光振興機構・釧路観光コンベンション協会・ふらの観光協会が日本版DMOの候補に名乗りを上げています。日本では、DMOについての研究はあまり進められておらず、文献資料も英語論文が多いため、英語のできない私にとってはとても辛いところではあります。(今思えば、中国語と英語を同時進行で学習しておいたほうが後々いいと自分の経験上思います。)しかし、東洋と西洋を比較するため、中国語、日本語、英語の文献資料を沢山読むつもりでいます。私にとって好きな分野、新たな挑戦なのでワクワクしながら研究しています。好きこそもの上手なれ。私の挑戦はまだ始まったばかりですが、途中で諦めることなく、研究を形に残すというゴールを目指して走っていきたいと思います。



写真左:勤務する北海学園大学附属図書館で

サークル活動紹介

私たちサークル連合は、サークルの取りまとめ役としてだけでなく、サークル活動を通して学生同士のつながりを深めるとともに、各サークルがより充実し幅広く活動できるよう大学とのパイプ役を目指して活動しています。大学は学問するだけでなく、学問以外でもたくさんのことを学び、そして発見する場です。その一つの手段が課外活動です。サークル活動は、大学生活を充実させる、また新しいことに挑戦するチャンスです。サークル活動を通して新しい自分を見つけ、仲間と充実した4年間を送りませんか。サークルに関する相談や質問は、遠慮なくサークル連合まで連絡してください。



■サークル連合 hsc_toiwase@yahoo.co.jp

平成28年度 サークル一覧

体育	OSB(アウトドアスポーツビジネスサークル)
体育	山岳同好会
体育	ダンスサークル(ドルディップ)
体育	テニスサークル
体育	軟式野球部
体育	バスケットボール部
体育	バレーボールサークル
体育	フットサル部(REGISTA)
体育	陸上競技部
文化	英語サークル
文化	環境ボランティア部
文化	韓国語サークル
文化	教育研究会
文化	軽音サークル
文化	中国語サークル(歓々喜々)
文化	ツーリズム研究会
文化	どさんこ広報サークル
各種団体	サークル連合執行部
各種団体	体育祭・大学祭実行委員会
各種団体	卒業アルバム制作委員会



写真左上・右上・左下:サークル勧誘のようす 右下:環境ボランティア部が参加した豊平地区町内会の花植え活動

新任教員 交換教員紹介



■新任教員
中西 良之
ナカニシ ヨシユキ

税務会計、財務諸表論などの講義を担当し、国際的租税回避行為など国際税務の分野を研究対象としています。

大学教員へのきっかけは、国税庁税務大学の教官時代に講義・指導によって研修生の実力が飛躍的に伸びるのを目の当たりにして教育の面白さを実感したこと、実務上の問題を学術的に研究したく2009年に北海道大学大学院に社会人入学したことです。大学院在学中に論文を執筆し、2014年に国税庁から石川県の金沢星稜大学大学院准教授に転出しました。大学院での論文指導とともに、ゼミ活動として能登地方のキリコ祭り参加、明治大学との合同合宿などフィールドワークを積極的に行いました。

本学では、税理士、会計士などの職業会計人、国税専門官、民間企業財務担当者などの人材育成とともに、東アジアとの交流を深めるため、引き続き韓国の学会での発表や人的交流を積極的に行いたいと思います。



■新任教員
李 鳳
イ ボン

私は韓国のソウル出身で、大学在学中に日本語を学ぶ機会を得ました。私が大学生の頃は、韓国ではまだ日本の文化が解禁されていなかった時代でしたが、日本でのホーム・ステイや交流を通して、日本を身近な国と感じていました。時と共に、私は日本と日本の文化を愛するようになり、研究と教育を通して日韓の文化の架橋になるような仕事をしたいという強い希望を抱くようになりました。この気持ちが私の原点であり、教育者及び研究者としての揺るぎない信念となっております。

私は、2001年度、北海道大学に研究生として来日し、修士・博士課程を経て博士号を取得しました。主な研究領域は、言語研究で、言語の実用的側面を重視した韓国語教育を行うことに強い関心を持っております。

今年度からは、幸運にも北海商科大学の専任講師として採用されましたが、皆さんと楽しく韓国の言葉・社会・文化を勉強して行きたいです。

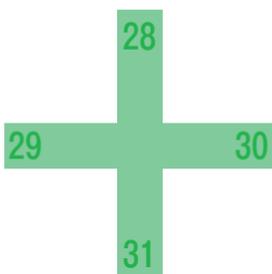


■新任教員
保坂 智
ホサカ サトシ

「日本文学と日本語」「特殊講義Ⅰ（文学からみた北海道）」「ゼミナール」などの講義を担当しています。専門は平安時代の『源氏物語』を中心としたかな文学作品です。

出身は栃木県宇都宮市で、学部生院生時代を含め、塾の講師、高校非常勤講師、北星大学非常勤講師として勤務しながら、2007年に北海道大学大学院文学研究科で博士号（文学）を取得し、同年から9年間藤女子中学高等学校で専任教諭として働いておりました。今年度から本学講師として採用され、講義の準備や専門の研究に本格的に取り組んでいるところです。

昨年は「文系学部廃止」報道があり、とりわけ文学は不要だとする意見も多い状況ですが、長期的には文系の知が有用であることは疑いませぬ。学生の皆さんには、ぜひ日本文学や日本文化についての知見をもった上で、専門知識を習得し商学部を卒業して社会で活躍してほしいと思います。



新刊紹介



『ネオリベラリズムと世界の疑似-自然化-
-アドルノ・ホネット・ポストン・ハーヴェイ・ポルトゥスキー・
シャペロー』
横田 榮一 著
2016年3月20日 / 梓出版社刊
ISBN978-4-87262-236-2

本書は、前著『カントとアドルノ』の続編であり、人間の歴史、あるいは世界が疑似-自然化し、疑似-自然へと退行するのは如何にしてであるかという問いに、アドルノ、ホネットらの議論を参考に答える。

@学生相談室ニューズレター4

「一人で抱え込まずに！Ⅱ」

学生相談室 カウンセラー 小林 美穂子
E-mail : soudan@hokkai.ac.jp

2010年度に北海商科大学に学生相談室が設置されて6年が経ちました。その間、ほんとうにさまざまな悩みを抱えている学生さんがよく来室されています。

それは、友人のことだったり、恋愛のことや親子のことだったり、生活の中で生じる対人関係のことなど多岐にわたります。また、「勉強についていけない」「お金がない」「就職活動に苦戦している」「人と比較して感じるコンプレックス」などなど、悩みそのものは、あらゆるところにその種は落ちていますね。

そうなんです。人間、生きていく上で悩みがまったくない人などいないのです。

大抵の場合は、親しい人に相談したり、気分転換を図ることで気持ちが和らいだり、自分なりに努力をすることで、少しずつ解決していくのですが、ときには、どんなに頑張っても、思い通りにならないこともあります。

そんなときは、「大丈夫」「なんとかなるさ」「仕方がないこともあるさ」と、割り切ってみると、案外心がスッとラクにな

ることがあります。“世の中、どうにもならないこともあって当たり前”“いやな人がいるのも当たり前”くらいに腹を括ることができれば、殆どことはやり過ごせるようになっていきます。

ただ、そうは言っても、「そう思えないから苦しいんです」という場合もあるでしょう。そんなときは、どうぞ一人で抱え込まずに、相談室の扉をたたいてください。一緒にどうすればいいか、考えていきましょう。まずは、上記のアドレスに予約申し込みの連絡をくださいね。



行事予定

6/26日	第1回オープンキャンパス	9/15日	3年次ガイダンス(午前)
6/29日	第2回所属学科選考ガイダンス[2年次]		4年次ガイダンス(午後)
7/1日	志望学科届提出期限[2年次]	9/16日	1年次履修登録
7/22日	振替講義日(月曜日)	9/17日	2年次履修登録
7/23日	レスブリッジ大学夏期海外研修事前結団式	9/20日	3年次履修登録
8/5日	前期講義終了		4年次履修登録
8/6日	夏季休業開始 成績開示開始、 成績・採点異議申し立て受付	9/21日・23日	履修登録訂正日(全学年)
		9/21日・23日	北海商科祭準備日(予定)
		9/24日	北海商科祭(予定)
8/7日・8日	第2回オープンキャンパス	9/25日	第3回オープンキャンパス
8/8日	成績・採点異議申し立て受付終了	9/26日	後期講義開始
8/13日~16日	全学休業日	10/12日	振替講義日(月曜日)
8/31日	海外語学留学生出発【韓国】(予定)	11/18日	後期修学指導面談(予定)
9/2日	海外語学留学生出発【中国】(予定)	11/25日	振替講義日(水曜日)
9/9日	前期修学指導面談②(予定)	11/27日	特別入学試験
9/13日	夏季休業終了 2年次所属学科発表	12/26日	振替講義日(水曜日)
		12/27日	冬季休業開始
9/14日	2年次ガイダンス(午前) 1年次ガイダンス(午後)	2017/1/9日	冬季休業終了
		1/10日	講義再開